



令和6年度 中学生ヒロシマ平和の旅 事業実施報告



中学生ヒロシマ平和の旅について

伊勢原市では、次代を担う若年層の平和意識を啓発することを目的に、中学生平和の旅事業を行っています。

令和6年度は、中学生平和作文の受賞者8名が「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として広島へ赴き、平和学習を行いました。

事業内容

日時：令和6年8月5日（月）～6日（火）

場所：広島平和記念公園・広島平和記念資料館 ほか

参加者：中学生ヒロシマ平和の旅派遣団 8名 ほか

事業報告

○市長・教育長表敬訪問 7月22日（月）

伊勢原市役所にて市長と教育長への表敬訪問を行い、激励のことばをもらいました。



○事前学習会 8月2日（金）

東海大学文化社会学部広報メディア学科水島教授から、広島で平和学習を行う目的を教えていただいた後、伊勢原被爆者の会の方から、被爆のお話を聞きました。



○広島での様子

8月5日（月）

11：38 広島市到着

広島の天気は快晴。まずは平和大橋へ向かいました。その後、ホテルで昼食をとり、広島赤十字原爆病院メモリアルパークで被爆遺構を見学しました。



13：30 中・高校生ピースクラブ主催「ヒロシマ青少年平和の集い」参加

全国7都県全13団体の小中高校生と「自分の地元ではどんな戦争を経験し、それをどう伝えたいか」と「核兵器をなくすために何ができるか」をテーマにディスカッションを行いました。また、原爆被害の概要説明や、山瀬潤子さんによる被爆体験講話を聞き、原爆の恐ろしさについて学びました。



●派遣団の声

- 平和の集いでは生まれた地域が違うからこそ、各々の考えをもち様々な意見がとびかい新たな考えが生まれた集いになったと思いました。また、同じような意見も多くみられ、どこに行っても根本的な考えは同じなんだと学びました。（徳田）
- 実際に体験した人の話を聞き、改めて現実だということを実感した。今ある平和は当たり前ではないのだと思い、自分たちは後世に継いでいくことが必要だと思った（小杉）

17:10 広島市内散策

爆心地の島病院で原子爆弾が炸裂した上空 580 メートルを見上げました。その後、平和公園内の被爆遺構を見学し、被爆前の日常の営みを感じました。



自主企画（折り鶴）奉納

原爆の子の像へ自主企画の奉納を行い、全員で平和の鐘を鳴らしました。



平和記念資料館見学

貴重な資料から、原爆の恐ろしさと平和の尊さを学びました。



●派遣団の声

- 目をそむけてはいけなさとわかっていても、目をそむけたくなるような怖さを感じました。この恐ろしさが原爆なんだと肌で感じました。（清水）
- 原爆の恐ろしさや残酷さ、人々の生活や街の変わり果てた姿を直に感じ、もう二度とこんな過ちを繰り返してはいけなさと同時に、人々の努力や必死の思いを感じることができました。（西山）

8月6日（火）

8：00 平和記念式典参列

伊勢原市民を代表して式典に参列し、平和を祈りました。



●派遣団の声

- 平和記念式典に参列し、式典には大勢の人が参列しており、その大勢の人が、平和を願っているのだと感じ、このような式典も、ずっと残しておかないといけない大切なことだと感じた（阿部）
- 一番驚いたのは、外国からの参列者がとても多かったことです。世界は今、戦争をしている国もあり平和とは言えませんが、世界には沢山平和を願う人がいるんだということに少し安心しました。（大畑）

10：00 広島市内散策(被爆遺構・原爆死没者追悼平和祈念館・レストハウス)

原爆死没者追悼平和祈念館や平和公園内にある被爆遺構を見学し、79年前に起きた悲劇を学びました。



10:20 本川小学校平和資料館見学

爆心地から410メートルの位置にある本川小学校平和資料館では被爆した建物を見学し、子どもたちの日常が原爆により一瞬で奪われたことを肌で感じました。



●派遣団の声

- 「全身まっ黒な人が近づいてくる。なんとそれは黒こげになっていた友達だった。」この言葉を読み、もし自分の友達がそんなふうになってしまったり、自分になっていたらとても苦しいだろうと、全身で感じた。(大山)
- 日赤病院や燃料倉庫と同じように、残っているからこそ分かる被害というものがあり、原爆の威力をより鮮明に理解することができた。(福澤)

11:35 広島アンデルセン見学・昼食

被爆建物として、被爆の歴史を残しながらパン屋として人々に親しまれている広島アンデルセンで、アンデルセングループの清川秀樹さまから被爆遺構保存への思いを伺いました。その後、2階でおいしいご飯をいただきました。



13:15 旧広島陸軍被服支廠・被爆ポンプ見学

広島市内で最大の被爆遺構である旧広島陸軍被服支廠と、最小の被爆遺構である被爆ポンプを見学しました。



15:00 広島駅発

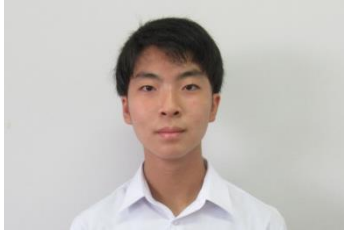
19:30 伊勢原駅着

長旅お疲れ様でした！



○派遣生徒の感想 -中学生ヒロシマ平和の旅に参加して-

団長 西山 佳佑（中沢中学校）



被爆地ヒロシマは、とても綺麗な町並みが広がっており、79年前の悲劇は感じさせないような風景でした。しかしそこには、確かに戦争の傷跡が多く残っており、想像を絶するほどの遺構や施設を目の当たりにし、改めて平和の大切さや命の尊さを強く考えさせられました。私は、これからも平和を願い、今回学んだことを一人でも多くの人に伝えていきたいです。

副団長 福澤 彩花（中沢中学校）



今回の旅を通して、核兵器は自分達が感じているよりも身近にあること、今でも核を保有している国があり、何か一つでも間違えれば人類が滅びかねない状態であることが分かった。2度と同じことを繰り返さないためにも、このことを周りに伝え、みんなで平和について考えていきたいと思っている。

副団長 小杉 菜々子（成瀬中学校）



戦争はいけないものだ、と言葉だけではなくこうして形にするとさらに平和への願いというものが強まっていると感じた。それなのに世界では今もなお戦争が続いてしまっている。一刻も早く戦争が終わり、人々が望む平和が生まれてほしい。ヒロシマだけではなく、全世界へこの平和の祈りが届く日を私も望んでいる。

徳田 瑛太（成瀬中学校）



広島に原爆がおちてから79年という月日経った中、変わったものと変わらないものがあると思いました。私は、何年経っても原爆のことを忘れないようにするには、目で見て感じられる被爆建物の存在が不可欠であることを学びそれを残していくためには私達がたくさん働いて税を納める他ないと思います。家族などには私の感じたこの事を伝えたいです。

大山 勇士朗（山王中学校）



今回参加して思ったことは、「絶対に繰り返すことではない」とことと、日本だけが考えることではなく、世界中の人、全人類が考えていかなければならない課題だと感じました。さらに広島を歩いてみて、色々なところに被爆した建物が残されていました。広島市の人々がどれだけ原爆の脅威を伝え残そうとしているのかが感じとれました。今回の旅を通して、広島と長崎では、昔、何があったのかをもっと知ってもらおうことをしてほしいと思いました。だから僕はこの旅から周りの人という小さな範囲からですが少しでも多くの人に広島や長崎の過去、そしてこれから原爆という問題があるということを知ってほしいです。

大畑 志帆（山王中学校）



広島を訪れてみて、核の恐ろしさを身近に感じられるからこそその「平和」への意識が、伊勢原を含めた他の地域との温度差を感じました。核を保有している国があるという現状、この意識の差はとても危ないと思います。実際に被爆した街は言葉以上の説得力がありました。広島を訪れることに大きな意味があるということを知ってほしいです。

阿部 匠汰（伊勢原中学校）



今回平和の旅に参加することができ、貴重な体験をさせてもらい、原爆の恐ろしさや原爆での被害など原爆の危険性を学び、それを保有する国があり、平和とはまだほど遠いことが分かる。広島で起こったことが二度と起こらないように、今回の旅で学んだことを家族や友人に伝えていき、多くの人に原爆について知ってほしいです。

清水 杏（伊勢原中学校）



全体を通して、自分一人では経験することができない貴重な体験をさせてもらえたと思います。原爆の恐ろしさと共に当たり前前に過ごしている日常の大切さを感じることができる旅でした。自分が学んだ事を身近な人に伝え、原爆について考える一つのキッカケにしてもらえるようにしたいです。